

様式1 (第15条関係)

会 議 録

[illegible]

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会

- ・課長あいさつ
- ・委員紹介及び委嘱状交付（机上配布）
- ・資料確認

2. 委員長及び副委員長の選出

- ・和泉市助成審査委員会規則に基づく委員長の選出を行い、議事進行を委員長に依頼
- ・委員長就任挨拶
- ・副委員長の設置について

（委員長）議事運営の都合上、今回は副委員長を置かずに委員長のみで進行してもよろしいか。

→「異議なし」の声があり、承認

3. 審査委員会の進め方と審査基準表について

（事務局）今年度は1団体から応募があり、説明7分、質疑13分の計20分で進行

審査は2段階で行い、和泉市男女共同参画推進事業（オアシス）助成金交付要綱第3条に示す助成金交付対象事業に該当するかどうかを協議いただき、対象事業とみなした場合、評価項目に沿って審査・採点を行っていただく。

4. 説明・質疑応答（1団体）

《コトノネ》

事業名：つながる備えプロジェクト

今回はつながる備えプロジェクトとして、家族や地域がチームとして支える暮らしをめざして、『もしもの時のあったかごはん』という講座を企画したものである。コロナ前に初めて和泉市男女共同参画推進事業（オアシス）助成金に挑戦し、「食とつながり」という角度から交流を持つきっかけを作った。その時の仲間とともに、槇尾学園エリアの横山、南横山をつなぐ活動を展開し、エリア限定の取り組みであったため、助成金申請は行わず、サークル形式で活動してきた。助成金をきっかけに、こうしたつながりが生まれたことは、大きな成果であったと感じている。

これまでの主な活動実績に記載しているまきおファンクラブの活動として、槇尾エリアのお祭りで1,000人分の豚汁を調理・提供した。1,000人分は経験がなく、未知の世界だったが、毎月ではなくても5年くらいともに活動をしているメンバーであったため、互いの動きや能力を把握し、阿吽の呼吸で対応することができた。一方で、先日自身が運転免許証の更新のために足を運んだ際、会話したこともない多くの人々が集まる空間に

身を置き、もし、今ここで災害が起き、この場にいる人たちと豚汁を作るとなっても無理だろう、とふと考えさせられた。特定の目的のために無作為に集まった大勢の中にいる体験を通じ、言葉を交わしたことがある、顔を見たことがあるレベルであっても、普段からの関係性の有無が及ぼす影響の大きさを改めて思い知るきっかけとなった。

孤独感の解消や地域におけるチームづくりの第一歩としては、顔見知りの人と何かに取り組むことが重要であり、極論を言えば実施内容は問わないと考えている。

ただ、個人的には、「食」という要素を重要視しており、人間関係を深める上で外せないテーマと捉えている。かつて、息子の中学校では、机を合わせて大きな布のテーブルクロスを敷き、皆で食事をするという文化があった。コロナ禍を経て、前を向いて食べるようになり、テーブルクロスの存在自体を知らない親や先生も増えたが、ともに食を囲むことには大きな意義があると思う。その一方で、不登校の児童生徒のなかには、人前で食事を負担に感じるケースもあるなど、食を取り巻く課題は多角的に伝える「種」が多く含まれている。

今回、防災というテーマを取り上げているが、夫の実家が福島県南相馬市にあり、東日本大震災での被災経験が社会活動へ関心を向ける原点となっている。当時、大阪で幼少期のこどもを育てていた自身には、直接的な支援は難しく、最終的には現場にいる人々同士で助け合うほかないという現実を痛感した。自身のリソースに限られた極限状態では他者へ手を差し伸べることが困難な場合もあるため、根底として、自分で自らの身をしっかりと守るという自助の意識を一人ひとりが高く持つことが重要で、誰かが助けてくれるだろうという他人任せの意識に依存する恐ろしさも踏まえ、日ごろからの備えと顔が見える関係性を作っていきたいと考え、本業務を企画する。

(委員) 具体的な講座の内容について教えてほしい。

(コトノネ) 具体的なメニューは今後検討するが、耐熱性ポリ袋を使用した防災調理を実施する。また、調理の待ち時間にプチ講座を行う。講座内容は、野菜ソムリエによる災害時に不足しがちな栄養・ビタミンの補給法と、南横山地域の炭焼き文化を踏まえた電気やガスを使わない先人の知恵等を考えている。最後には、作ったものを皆で一緒に食べる。

(委員) 実施回数とそれぞれの対象エリアはどうなるか。

(コトノネ) 今回は、和泉市全体を対象に1回開催予定

(委員) 開催場所はどこを予定してるか。

(コトノネ) 調理室のある市内公共施設を予定しており、日程等を調整の上、決定する。

(委員) 募集・参加人数はどれくらいを見込んでいるか。

(コトノネ) 調理台数や申込状況に応じて調整するが、40人程度を想定している。

(委員) チラシを作成するとあるが、こういった周知を行うのか。

(コトノネ) サークル内への周知や市広報誌への掲載に加え、設置協力が得られる各所へのチラシ配架を依頼する予定である。

(委員) SNS についても記載があるが、具体的には何を使う予定か。

(コトノネ) 規定上問題がなければ、個人で使用している FaceBook、Instagram、Threads に掲載する。

(委員) 防災の観点が強く打ち出されているが、災害発生時の避難所開設等を想定した訓練なのか、平時における事前の備えを目的としたものか。

(コトノネ) 事前の備えを想定しており、市民への普及啓発を目的としている。一人ひとりの自助意識を高め、防災に関する対応力や経験値を向上させることが狙いである。

(委員) 本講座の受講者を防災の「種」として地域に分散させ、自助から共助への展開を図る構想と捉えるが、この取組を単回の講座のみで達成する意図か。

(コトノネ) 現時点の体制では本年度の開催は1回に限られる。今後広げていきたいと考えている。

(委員) 本助成金は「男女共同参画社会の実現を目指すための課題解決に向けた」活動に交付されるものだが、男女共同参画という観点はどうか。

(コトノネ) 本事業を通して、誰もが調理・防災の担い手となり、性別を問わず支え合える関係性の構築をめざす。また、これまでの活動経験から、皿洗いといった日常的な作業をともにする場面こそが、当事者自身も気づいていない潜在的な悩みや課題を顕在化させ、エンパワメントへつながる有効な機会になると捉えている。

(委員) 講師は具体的に決まっているのか。

(コトノネ) 横山エリアに地元の食材や食育に精通している人がいるため、候補として考えているが、依頼はまだしていない。野菜ソムリエ、先人の知恵の講師についても未定。

(委員) 講師の男女共同参画への意識も非常に重要であると考えているため、その点を踏まえて講師選定いただきたい。また、事業経費に講師の弁当代が計上されているが、講座内容に照らすと不要ではないか。

(コトノネ) 申請書の記載は誤りであり、実際は防災調理における講師分の食材費である。

(委員) 食材費は参加者から徴収する予定か。

(コトノネ) 現時点の計画では、参加のハードルを下げるため参加費は徴収せず、事業経費上も0円として計上している。ただし、助成金の交付決定額や実際の参加者数等の状況に応じ、必要に応じて食材費の一部を参加者から徴収する。

(委員) 性別を問わず支え合える関係性の構築は、災害時のみならず日常の家庭生活や地域活動においても重要である。講師と相談の上、そうした視点も講座内容に反映させてほしい。

（委員）災害発生時に男性が主導権を握り一方的に取り仕切ってしまう実態や課題があることを認識いただき、その上で、誰かが指示を出して仕切るのではなく、対等に協力し合う「協働」の姿勢で取り組めるよう整理されたい。

（委員）広報・周知方法や実施場所も非常に重要だと考える。本事業を効果的に推進する上では、広報や周知の方法、ならびに実施場所の選定も非常に重要であると考ええる。

（事務局）以上で終了とする。審査の結果は後日1週間前後で郵送する。

#### 5. 審査票の記入

（委員長）要綱第3条に示す助成金交付対象事業に該当するかどうか協議したい。コトノネの事業について、意見はあるか。

→意見なし

（委員長）意見がないため、挙手により採決を行う。

→全会一致で助成金交付対象事業に該当するとみなした。

#### 6. 集計・結果の発表

・委員長から事務局へ集計及び結果発表依頼

（委員長）申請団体の説明、質疑において申請内容の追加・修正に関する発言があった場合は、委員の意見等を踏まえて、結果通知書に記載する。議事録及び結果通知書記載内容については、事務局と調整したいと思うが、一任していただいてよろしいか。

→「異議なし」の声があり、承認

#### 7. 閉会